

企業における中高年齢障害者に対する 配慮と課題に関する検討

- 宮澤 史穂（障害者職業総合センター 上席研究員）
春名 由一郎、野口 洋平、堀 宏隆、武澤 友広
（障害者職業総合センター）

背景 | 中高年齢障害者の雇用継続の課題

- 中高年齢の障害者の就業継続に取り組む企業においては、若年障害者の雇用とは異なる課題に直面したり、新たな配慮を実施していることが想定される
- 先行研究（障害者職業総合センター,2021）では、企業を対象に、中高年齢（45歳以上）の障害者に対して実施している配慮や、配慮を行ってもなお残存する課題等について調査を実施

背景 | 先行研究の概要

●対象

常用労働者30人以上の民間企業7,000社

●調査内容

- ・ 配慮のある中高年齢障害者の有無
- ・ 中高年齢障害者に対する配慮事項（57項目）
- ・ 中高年齢障害者の配慮を行っても残存する課題（53項目）の有無
- ・ 職場の風土について
- ・ 外部の相談機関への相談状況

背景 | 先行研究の概要

● 結果の概要

- ・ 回収数：1,243社（回収率：18%）
- ・ 障害者雇用企業の7割以上が45歳以上の障害者を雇用

背景 | 先行研究の概要

●結果の概要

- ・ 障害で業務の遂行に関する配慮を実施

例) 「業務実施方法についての
分かりやすい指示」

→知的障害、精神障害が多い

- ・ 残存する課題も障害により異なる

例) 「仕事内容の設定」

→多：肢体不自由、内部障害

少：知的障害、精神障害

目的

- 先行研究から明らかになった、障害種類による配慮や課題の違いは、障害者が従事する仕事内容の違いの影響も大きいことが想定
- 業務に関する配慮や課題について、障害者が従事する仕事の内容による違いがみられるかどうかを、先行研究の再分析により検討

方法 | 分析に用いた調査項目

1. 中高年齢障害者の従事している仕事内容
障害種別に11項目のうち該当するものすべてに回答を求めた

2. 雇用している中高年齢障害者への配慮
「基礎的な職業能力の開発」（3項目）、
「業務の見直しや配置転換」（6項目）について
配慮を実施しているもの全てに回答を求めた

方法 | 分析に用いた調査項目

3. 配慮を実施しても残存する課題

- 雇用している中高年齢障害者への配慮を行ったうえで残存する課題（53項目）の有無について回答を求めた
- 項目の類似性により項目数を集約するため、クラスター分析により、「職業基礎能力に関する課題」として「話や指示の内容を理解すること」や「本人の能力に応じた仕事内容の設定」といった11項目に集約し、分析に用いた

方法 | 分析方法

- 仕事内容について回答が多かった「肢体不自由」、「内部障害」、「知的障害」、「精神障害」を分析対象とした
- 配慮実施又は残存課題の有無を独立変数、仕事の内容を従属変数とした判別分析を障害種別に実施
- 障害種別ごとに判別式と各従属変数のwilksの λ を算出し、いずれもが $p < .05$ となった項目を統計的有意とみなした。

結果 | 従事している仕事内容 (上位3つ)

順位 障害	1	2	3
肢体不自由 (n = 335)	事務 (55.2%)	専門・技術 (18.8%)	サービス (13.4%)
内部障害 (n = 220)	事務 (46.4%)	専門・技術 (23.6%)	管理 (14.1%)
知的障害 (n = 110)	運搬・清掃・ 包装等 (53.9%)	生産工程 (31.5%)	事務 サービス (10.1%)
精神障害 (n = 174)	事務 (49.4%)	運搬・清掃・ 包装等 (26.4%)	生産工程 (15.5%)

結果 | 仕事内容による配慮の違い（肢体不自由）

配慮項目

業務遂行を援助する者の配置

仕事内容	係数
管理	0.04
事務	0.70
販売	-0.13
農林漁業	0.28
専門・技術	0.42
サービス	0.33
生産工程	0.44
保安	0.70
輸送・機械運転	-0.09
建設・採掘	-0.23
運搬・清掃・包装等	0.66

「保安」で配慮実施

結果 | 仕事内容による配慮の違い（知的）

配慮項目

個人の能力に応じた仕事の
内容の変更

「事務」で配慮非実施

「専門・技術」で配慮実施

仕事内容	係数
事務	-0.65
販売	-0.05
農林漁業	0.14
専門・技術	0.65
サービス	0.32
生産工程	-0.29
輸送・機械運転	-0.20
運搬・清掃・包装等	0.15

判別的中率（交差妥当化済み）：54.7%

※回答がなかった仕事内容は分析から除外

結果 | 仕事内容による配慮の違い（内部・精神）

配慮項目

配置転換等による 人事管理面の配慮

仕事内容	係数	
	内部障害	精神障害
管理	-0.19	0.31
事務	0.69	0.81
販売	-0.27	0.02
農林漁業	0.61	-0.13
専門・技術	0.31	-0.12
サービス	0.05	-0.24
生産工程	-0.17	0.04
保安	0.05	0.30
輸送・機械運転	-0.09	-0.03
建設・採掘	0.13	0.34
運搬・清掃・包装等	-0.14	0.12

「事務」で配慮実施

判別の中率（交差妥当化済み）

59.1%（内部）、66.2%（精神）

結果 | 仕事内容による課題の違い

- 残存課題のクラスター 11項目のいずれかを課題として選択したかどうかを目的変数、仕事の内容を仕事の従属変数とした判別分析を障害種別実施

→判別式が有意になった障害なし

考察

- 中高年齢障害者の仕事内容による配慮内容の違いがあることを示唆
 - ⇔ 残存課題に関する違いは確認できなかった
- 知的障害：「個人の能力に応じた仕事の内容」
事務職が多く、専門・技術職で少ない
 - ➡ 事務系職種は、体力をあまり必要とせず、
専門・技術職のような仕事内容の変更の必要も
少ない仕事内容であることを示唆